



かるうじゆく
何陋塾

投稿者：何陋塾 代表 佐原市郎

何陋塾では、『論語』の素読をしています。論語は、中国の孔子の言葉を記録した古典で、人生の喜び、生き方を教えてくれるものです。

「学びて時にこれを習う、また説まことばしからずや。朋あり遠方より来たる、また樂よろこしからずや。…」

市の生涯学習センターで、毎月第3土曜日に小学生から高齢者まで塩野先生と学んでいます。

現在、新年度の塾生を募集中です。興味のある方は事務局までお電話ください。

問 何陋塾 事務局 村山
TEL 0 2 8 7 (2 3) 2 3 3 2



市内で活躍する
皆さま
大田楽人

黒羽えんがわマルシェ

投稿者：ヨイショ！カード会事務局 郡司 祐太郎

当会は、お買い物ポイント事業を通じて地域商業活性化に取り組んでいます。去る1月29日、黒羽向町の旧家(元黒羽町長 斎藤 典男 邸)にて「黒羽えんがわマルシェ」と称した商業イベントを開催し、ポイント還元抽選会に加え、黒羽銘品の抽選会や試飲試食カフェ、商店持寄りセール、チビッコえんがわ駄菓子屋などを企画しました。黒羽中学生も参画し、全校生が製作した八溝杉コースター配布や運営のスタッフとして活躍したりと、幅広い世代に黒羽らしさを体感してもらい、1,135名の来場者の皆さまに地元愛を育てていただきました。

問 ヨイショ！カード会事務局(黒羽商工会内)
TEL 0 2 8 7 (5 4) 0 5 6 8



いいところ
撮り

ぜにむろづか
『冬の銭室塚古墳』

投稿者：小谷 英明 (末広)

2023年元日の早朝に撮影しました。初日の出から間もなくの時間です。

冬の早朝のシンとした感じが出ているように思います。

【銭室塚古墳とは】

大田原市北滝にある市指定史跡で、6世紀末ごろの築造と推定される円墳です。



2/21

水道施設の有効利用

マイクロ水力発電事業実施に伴う協定締結



大田原市と株式会社DK-Power(本社:大阪府吹田市)は、「上石上配水場におけるマイクロ水力発電事業」実施に伴う協定を締結しました。

これは北那須水道事務所から配水場に送られてくる水の落差を利用し発電を行うものです。これにより年間約96トン相当のCO₂を削減します。小さな一歩ですが2050年温室効果ガス排出ゼロに取り組んでいきます。

2/20

ザゼン草群生地の開花に向けて

文化財保護・保全への取組み



2～3月頃、市指定文化財「ザゼン草群生地」ではザゼン草が開花時期を迎えます。湿地に生えるサトイモ科の多年草で、花の形が座禅を組む僧の姿に見えることが名前の由来とされています。

近年減少傾向にあります。北金丸ザゼン草を守る会を中心に再生に向けた取組みが行われています。また、金丸小学校の児童による清掃活動など、地域の文化財の守るための活動を行っています。

市史編さんだより vol.30

大田原市を含む那須地区は古来より馬の産地として知られていました。江戸時代には、八溝山系の地域(芦野・黒羽・馬頭・烏山)で馬の生産が奨励されてきたことがわかっています。明治維新以降、日本馬は軍馬として育成する方針がとられ、西洋馬との混血化を進めることにより、馬の大型化が進められていきました。『親園村郷土誌』(1911年)には、「個人間或八団体間二馬匹改良ノ道ヲ講ジツツアルモノノ如シ」と馬の大型化に勤む当時の人々の姿が書かれています。

このように、農村地域で大型化された日本馬たちは、日清戦争以降、戦争に駆り出され故郷に戻ることはありませんでした。大田原市内には28基の軍馬に関する慰霊碑が存在しています(大田原地区9・黒羽地区14・湯津上地区5)。

大田原市内で最古の軍馬に関わる慰霊碑は、黒羽地区(南方)にある大正7年(1918)8月建立の「徴発軍馬供養記念馬頭観音」です。また、昭和12年(1937)には3地区で軍馬の慰霊碑が多数建立されていることが調査の結果わかりました。これは、同年に勃発した日中戦争により多くの馬が農村から徴発されたためだと考えられます。馬は農村の貴重な労働力として重要であったこと、農村での生活の一部であったことなど、様々な理由で多くの慰霊碑が建立されたと考えられます。石碑の裏面には、馬の名前・馬の持ち主が刻まれていることが多々あります。それだけ、馬との生活は農村に生きる人々にとってかけがえのないものであり、慰霊・供養の気持ちが強かったのかもしれない。(現代部会 作間 亮哉)

現代部会調査速報⑧

～馬の慰霊と戦争～

徴発軍馬供養記念
馬頭観音(南方)

愛馬奉公碑(野崎)